

## 令和6年度 第2回子ども部会

日時：令和6年9月13日（金） 10：30 ～ 12：00

場所：奄美市市役所 5階大会議室

参加者：35名（オンライン2名） 別紙名簿あり



### 1.参加者自己紹介

### 2.事務局より

○療育利用の可否に関する判断基準や手順などについて（市町村）

- ・基本的に乳幼児健診でのフォローがされているかどうかということを基準にしている。
- ・転入等の方は、以前居住していた市町村での情報を確認。以前の市町村で利用がない場合は、医師の診断書なども参考にしている。
- ・一番大切な基準は、生活状況の困り感などであるため、明らかに特性がある場合は、相談支援専門員が実施するアセスメントなどに基づき、療育の必要性を見極めた上で支給決定するようにしている。
- ・学童期の利用として気になっているのが「習い事感覚」「居場所づくり」「学童的な利用」などを目的に特定の事業所利用ありきで申請される方もいる。
- ・保護者の話をよく聞いて、利用の必要性について判断に困る場合は、病院受診を促し、医師の意見なども聴くなど、客観的な視点で判断するようにしている。

○保育所等訪問支援に関するアンケートの実施について（※別紙資料参照）

- ・保育所等訪問支援について、最近入りにくいと感じているという意見があり、現状把握の為、サービス実施側と、受入側の両方の意見を聴けるようなアンケート実施を検討したい。
- ・保育所等訪問支援事業の理解もそれぞれの事業所で違いもある為、受け入れ側が混乱しないように、地域で統一したパンフレットの作成も合わせて検討したい。
- ・今回、たたき台として示したものを元に、アンケートを作成。10月をめどに実施予定。

### 3.グループワーク

#### 議題：奄美地区の子どもの支援に関わる方が感じている課題について

##### ○保育所等訪問支援に関する認識の違いについて

- ・事業所としては、「いつでも入って構わない」というスタンスなので、自分たちが行くことも大丈夫と思いがちだが、受け入れ側からすると複数児童がいると、毎月その準備をしなければならないという状況が負担になるという意見もある。
- ・学校教員に向けて事業所の取組の説明や支援に関する研修会など、事業所との繋がりや保育所等訪問支援などに関する認識を高められるような取り組みが必要。
- ・学校に対して保育所等訪問支援で介入するだけでなく、学校の教員向けに事業所見学会を実施した事業所では、見学に来られた教員から、支援方法などについて発見があったという意見も聞かれ、今後の連携に向けて良い機会となったとのことだった。
- ・鹿児島県の他地域で、保育所等訪問支援に入る時に、学校側から文書を要求され揉めたという事例があった。顔の見える連携により関係性ができていたら、学校としての承認の段階に必要なこととして、文書をだすことは、普通に対応できることだったと思うが、警戒心や否定的な対応が、事前に合ったことで揉めるきっかけになったのだと考えられるため、横のつながりや連携をとり、話を出来る関係を作ることが大切だという意見があった。

##### ○保育所等訪問支援の報告ツールの統一について

- ・いろいろな事業所が支援に入る場合、書式の違いで読みにくいこともある。書式を揃えてもらうことで、情報を受け取る側のストレスも少しでも軽減するかもしれない。

##### ○発達検査について

- ・発達検査の時期は、市町村でも検査の時期がまちまちなので事業所としてタイミングが分かりづらい。(対象の児童や進め方などについても共有が必要)
- ・発達検査の目的がよりよい発達の為に行う検査と言うことを再確認した。
- ・事業所へ相談してくれる学校もある。一緒に連携を取り、進学に向けた発達検査を進めている。(5年生後半から6年生前半くらいの時期が効果的ではないかという意見が多かった。)

##### ○高学年の子どもの「性に関する問題」「就学に向けた問題」などについて

- ・年齢が上がるにつれて、気持ちの不安定さも出てくる。子どもの不安定な気持ちに寄り添っていくことで、将来進んだ先(進学後、就労時など)で本人が力を発揮できる土台になる。就労前の支援を受けている時期に不安感が出たことは、逆にとらえると今の支援者が対応できると言うことなので、悪いことだけではないという意見もあった。

##### ○特性の強い子供さんへの支援の悩みへの寄り添いについて

- ・コミュニケーションが難しい保護者への対応事例の共有：反応があまりない保護者に対し

て、すぐに改善はしないが、コミュニケーションを取りながら少しずつでも信頼関係を作っていくことが大切だという意見が多かった。

- ・保護者の特性も見極めながら、関係性を作っていくということも大切。

#### ○情報共有について

- ・子どもは活動する場面によって見せる顔が違う為、事業所、学校それぞれの見立てだけでなく、複数の関りで子どもを見ることが大切。
- ・ケース会議実施により連携が取れて良かったという声もある反面、実際連携しようと思う、意外と情報共有の場が少なく、困っているという声も多く聞かれている。
- ・学校によって入りやすさが違う。送迎時間にいろんなことを語ることができる学校もあれば、誰に話したらよいか分かりにくい学校もある。

#### ○放課後等デイサービスの理解について

- ・事業所を利用していない児童生徒から「放デイってどんなところ？」という質問を受けたときに説明をしながら関わることで、周知や関係作りをしている事業所もあった。
- ・行政として、放デイ、保育所等訪問支援事業などの福祉サービスについて、学校現場などに周知を図る必要があると感じた。

#### ○連携について

- ・事業所としては、「いつでも来てもいいですよ」とオープンな体制をとっていても、学校からすると個人で簡単には動けないというような状況もある。公開療育などの情報をしっかりと発信することが必要

#### ○市町村が行っている取り組みの共有について

- ・3歳児以降の検診のフォローなどについて、市町村が行っている取り組みや、特別支援学校が行っている「巡回相談」や「発達外来」「発育発達クリニック」など、様々なつなげる場があるが、それぞれがどのような役割でどのようなタイミングで行っているかなど、みんなで共有した。
- ・龍郷町が、独自で「龍郷子ども支援 net」を開催し、町内の学校、保育所、療育関係事業所があつまって、ケースを話し合っている。(他の市町村としても、参考にしたいという意見が聴かれた。)

#### ○学校との連携及び情報共有について

- ・保育所等訪問支援に入る際に、先生方が何か言われるのではないかと構えている状況もあり、事業所が必要だからと思っていても、毎月入るのは難しい状況がある。
- ・中学まで放デイを利用しているも、高校入学と同時に利用しなくなることもあり、学校としては、どこに相談したらよいか分からない状況もある。

- ・基幹センターや市町村の保健師など相談できる場所があるということを学校にも知ってもらうことが大切。

○保護者とのコミュニケーションの在り方について

- ・支援者側として、積極的に関わってこない保護者との温度差やコミュニケーションの取りにくさに困り感を感じているが、直接保護者に合える時に、保護者と話をするようにしているという意見があった。

○支援を受けてきた子どもと受け取ってこなかった子どもの差がある状況について

- ・教員も、その保護者や本人にどのように関わってよいか悩みながら関わっている状況の中で早期療育の必要性を感じているということ共有。
- ・乳児期の検診時の関りや保育所や幼稚園などと早い段階で連携を図ることや、事業所との関りも大切だという意見があった。

○児童発達支援センターの役割について

- ・鹿児島市では、児発センターとしての役割に悩んでいる事業所も多い。児発センターの役割を一事業所だけで抱え込まず、協議会などと連携しながら、役割を果たしていけたら良いのではという意見が出された（鹿児島市の事業所とも共有していきたい）

○意見交換に関する感想

- ・参加された機関同士が同じ議題で意見交換することで、次の連携のきっかけができる良い会だと感じた。
- ・どの課題にしても、連携や顔の見える連携の場を通して連携のハードルを下げていくことが大切だという事に気づく機会になった。奄美地区では多職種で話し合う場がつけられていると感じている。奄美方式を県内にも広げていけたらよいと思う。

【グループ】

1G

- にこびあ
- チャレンジドサポート奄美①
- 大島北高校①
- 名瀬保健所（研修医）①
- 奄美市健康増進課①
- 瀬戸内町保健福祉課①



2G

- 愛かな
- 聖隷かがやき①
- チャレンジドサポート奄美②
- 大島北高校②
- 名瀬保健所①
- 瀬戸内町保健所②



3G

- のぞみ園①
- ハートリ八龍郷
- 聖隷かがやき②
- 名瀬保健所②
- 奄美市健康増進課②
- 奄美市教育委員会



4G

- ヒマワリクラブ
- スターズ
- 大島教育事務所
- 大島特別支援学校
- 名瀬保健所（研修医）②
- 龍郷町子ども子育て応援課



## 5G

○OnYokki

○あすなろ

○あんだんて

○のぞみ園

○ヒマワリ就学塾

○ていだ



## 4.その他

○中部地区子ども支援 net の開催について

・令和6年10月11日（金） 奄美市役所 5階会議室

○第3回そだサポ勉強会

・令和6年10月18日（金） オンライン

事例報告：愛かな/事例提供：のぞみ園/司会進行：にこぴあ